英米文化学会会報

第 52 号　　平成 14 年 7 月 15 日版

第 20 回大会の会場となる函館大学

目次

◆英米文化学会第 20 回大会開催のお知らせ
◆大会研究発表要旨
◆第 110 回例会のお知らせ
◆『英米文化』投稿希望者へのご案内
◆財務報告
◆事務局からのお知らせ

◆英米文化学会第 20 回大会のお知らせ

標記の大会が下記要領で開催されます。
開催日時：平成 14 年 9 月 6 日（金）　13：30～16：30
　　9 月 7 日（土）　9：30～15：00
開催場所：函館大学　〒042―0955 函館市高丘町 51 番 1 号
大会参加費：一般 500 円　学生 300 円
<懇親会>
会場：函館国際ホテル
日時：9 月 6 日　6 時より
会費：5000 円（当日申し込み）

9 月 6 日
研究発表＜14：10－16：30＞
1. ホッブズの『リヴァイアサン』における自然法について　小林　弘（東京理科大学）
2. ローレンス・ヴァン・デル・ポストと日本　原田　俊明（昭和女子大学短期大学部）

3. カントリーミュージック歌詞における酒の研究　　田中　健二（摂南大学）

9月7日
研究発表 ＜9：30－15：00＞
１．帝国主義とマジック・リアリズム
　　グロリア・ネイラー、ジョン・ホークスを中心に　　馬場　聡（筑波大学大学院）
２．マーガレット・アトウッドの『浮かび上がる』に現れるカナダ
　　塚田　英博（城西大学）
３．ジョージ・ハーバートとオレンジの木　天職に就くまでの不安について
　　山根　正弘（創価大学）
４．過去分詞を伴なう There 構文の派生について　　小堂　俊孝　（日本大学）
５．エフェサスの女たち　　『間違いの喜劇』を読む　　門野　泉（清泉女子大学）
６．ドラッグ・クウィーン　サンフランシスコの LGBT カルチャー
　　鵜浦　裕（札幌大学）

◆第20回大会発表レジュメ

＜9月6日＞

１．ホッブズの『リヴァイアサン』における自然法について　　小林　弘(東京理科大学)

トマス・ホッブズ(1588-1679)の自然法は、フーゴー・グロチゥス(1583-1645)に始まる「近世啓蒙期自然法」に属していると言われている。グロチウスは、自然法を、人間の理性によって直覚的に知られた倫理原理として理解し「神の法」であると論じている。彼の例示している自然法は、「他人のものを侵さないこと」、「我々が何ものか他人のものを有し、或いは、それから利得を得る場合はこれを返還すること」等である。ホッブズは、彼の主著『リヴァイアサン』の中で自然法を約19箇条も多くを挙げている。その自然法の性格が「神の法」であると近現代の多くのホッブズ研究者は解釈している。しかし、ホッブズの約19箇条もの多くの自然法の性格は、本当に「神の法」であると解釈することができるのだろうか。本発表は、ホッブズの自然法の性格について、ホッブズの『リヴァイアサン』を中心にして近現代のホッブズ研究者の解釈を批判的に検討しつつ、考察する。

２．ローレンス・ヴァン・デル・ポストと日本　　原田 俊明（昭和女子大学短期大学部）

ヴァン・デル・ポストの日本との深い因縁は、日本人記者2人に珈琲をご馳走したことに端を発する。その数ヶ月後、ヴァン・デル・ポストは遥か極東の日本へといざなわれる。往路、森船長と大いに親交を深め、日本には2ヶ月ほど滞在し、日本人や日本文化についての造詣を深めた。しかしその後、ヴァン・デル・ポストは全く別の形で日本と再会することになる。1942年、英国陸軍将校としてジャワ島でコマンド部隊を指揮していたところ、彼は運悪く日本陸軍に捕えられた。そして終戦まで俘虜収容所で過酷な条件の下、常に死と隣り合わせの虜囚の境遇を耐え忍んだ。彼は戦後この実体験を素材に小説を著している。こういった経歴から、ヴァン・デル・ポストは平時に親愛なる友としての日本人を、そして戦時には残虐な支配者としての日本人とじかに接触し、観察したことになる。彼の日本人観はそのユング的世界観と愛他主義的な許しの思想と相俟って、抑留体験者の中でも異彩を放っている。本発表ではこの特異な作家の実体験と、日本人というモチーフを得たときのその世界観について述べたいと思う。

３．カントリーミュージック歌詞における酒の研究　　田中　健二（摂南大学）

日本の大衆音楽として、演歌や歌謡曲の歌詞の中に「酒」がたびたび登場する。例えば高橋掬太郎作詞、古賀政男作曲、藤山一郎歌唱の「酒は涙かため息か」の中で、酒は寂しさや悲しさのコンテクストで用いられている。美空ひばりの「悲しい酒」も同様である。一方アメリカ音楽文化のひとつであるカントリーソングは酒をどう扱うか。酒を飲む状況は日本と同様に悲しみコンテクスト、諦念コンテクストが多いのか。酒をどう捉えるかは国民性や文化からの影響が大きいので、アメリカにはアメリカ独特な酒の見方があるはずである。また日本では焼酎とか日本酒とか具体的に言わずに「酒」とだけ言い、アルコール飲料をまとめて表現するが、英語では何と言うのか。本研究では現代カントリーシンガー30人の400曲分歌詞をコンピュータに入力して、さまざまな検索手法を利用して酒に関する歌詞を分析してみたい。酒に関する語彙が登場する場面や酒の種類にも注意を払って、できるだけ正確なデータとともにアメリカ文化の一端を考察する。

＜9 月　日＞

１．帝国主義とマジック・リアリズム　グロリア・ネイラー、ジョン・ホークスを中心に

馬場　聡（筑波大学大学院）

(Gloria Naylor, 1950 - の『ママ・デイ』(Mama Day, 1989)
ス(John Hawkes, 1925　1997)の『もうひとつの肌』　は共にシェイクスピアの戯曲『テンペスト』の改作である。『ママ・デイ』においてはニューヨークと南
プリングスという二つの共同体を巡って、反帝国主義／反父権主義的言説が生産されていく。一方、『もうひとつの肌』においては女性君主ミランダが支配する島を脱出した主人公スキッパーが、新

二つのアメリカ小説のテクストに使用されているマジック・リアリズムの手法が帝国主義／植民地主義／父権主義へ亀裂を与える契機として捉えられることを明らかにしていく。

２．マーガレット・アトウッドの『浮かび上がる』に現れるカナダ　　塚田　英博（城西大学）

カナダの作家マーガレット・アトウッドの『浮かび上がる』が出版された時期は、ケベック・ナショナリズムの気運が最高潮に達した時期と重なる。小説の舞台がケベックの森であり、カナダ人が感染しアメリカ化されていく邪悪な根源として米語を非難していることから、仏語を有するケベックをアメリカから守ろうとするナショナリズムの小説と解釈されがちである。しかしこの小説が出版された 1972 年においては、米語の拡張はケベック分離独立に繋がり、ケッベック・ナショナリズムにとっては好都合なのである。アメリカを蔑視する立場はアトウッドがこの小説で取り上げ、アトウッド自身も推進している「第三の立場」に通じるものであり、アメリカ化と対峙するイデオロギーなのである。そしてこの「第三の立場」を危機におとしめるのが米語となる。何故米語がこの時期重大なキーワードになりアトウッドが米語をこれほど危惧したのかを考慮に入れながら、他のアトウッドの作品とカナダの放送に関する公文書、カナダ政府首脳の発言等を参考にし『浮かび上がる』をこれまでとは異なる視点で論じていこうと思う。

３．ジョージ・ハーバートとオレンジの木　天職に就くまでの不安について

山根　正弘（創価大学）

十七世紀イギリスの宗教詩人ジョージ・ハーバートの詩集『聖堂』には、「仕事」と題する詩が二編おさめられている。ハーバートはその最初の詩「仕事」（一）で、いまだ天職を知らず、それに就けないことからくる不安、及び苦悩を述べ、そのあと「仕事」（二）では、この世での使命をほんの少しでも果たせたらとの願望を披瀝する。その願望をより明確にするため、当時としては貴重であったオレンジの木をイメージとして用いる。ハーバートが「あの働きもののオレンジの木になりたい」("Oh that I were an Orenge-tree, / That busie plant!") と表明するとき、「働きもの」とはいかなる意味で、その木に託された想いとはいかなるもであったのか。本発表では、古代ギリシャ・ローマそして当時の植物誌の文献を参照して、オレンジの木に託された真意を解明する。

４．過去分詞を伴うThere 構文の派生について　　小堂俊孝（日本大学）

There 構文の派生は生成文法研究において格理論の発達とともに広く考察されてきたテーマである。本発表では There 構文の中でも特に過去分詞を伴う Peripheral There Construction (PTC)の派生を考察し、長距離の一致によって誤って文法的とされる文の非文法性の説明を求める。また受動態構文の派生についても言及し、名詞句の移動の可否を be 動詞の意味の違いに求めることによって、過去分詞を伴う PTC と受動態構文の派生の違いが併合優先の経済的理由によるのではないことを主張したい。最後に there-構文と受動態構文の意味の違いに踏み込めればと考えている。

５．エフェサスの女たち　　『間違いの喜劇』を読む　　門野　泉（清泉女子大学）

シェイクスピアの初期の喜劇である『間違いの喜劇』(1592)は、主に、ローマ喜劇『メナエクムス兄弟』からヒントを得て作劇したと考えられている。シェイクスピアは、材源にした劇にさまざまな改変を加え、新たな喜劇に仕上げているが、とくに女性の扱いに工夫が感じられる。登場する女性の数を単に増やしたばかりでなく、それぞれの個性を描き、重要な役割を与え、劇に深みを添えている。本発表では、アンティフォラスの妻エイドリアーナとその妹ルシアーナを中心に、シェイクスピアが材源の『メナエクムス兄弟』の女性をどのよう書き換え、それが作品の中でどのような意味をもつのかを、女性たちの名前を手がかりにして考えてみたい。

６．ドラッグ・クウィーン　サンフランシスコのLGBT カルチャー　　鵜浦　裕（札幌大学）

映像をまじえた、サンフランシスコ LGBT カルチャーの紹介を趣旨とする。同地の地理・歴史を背景に、啓蒙活動、フェスティバル、ファンド・レイジングにみられる彼らの多様な活動、それらが生み出す彼らの政治力、経済力、組織力に触れる。とくにレザーマン、ドラッグ・クウィーン、フェティッシュな SM などのサブグループについて撮影したキワモノ映像なども見る。

◆第 110 回英米文化学会例会のお知らせ

第 110 回英米文化学会例会を下記のとおり開催いたします。研究発表の申し込みは２ヶ月前の９月１６日です。発表申込者は、レジメを添付の上、例会担当までお申し込み下さい。

例会開催日：　平成１４年１１月１６日（土）午後３時～午後５時
例会場所　：　昭和女子大学研究館　７Ｆ
研究発表申し込み締め切り：　平成１４年９月１６日
研究発表申し込み先：　例会担当　上野　和子　（kazukou@aol.com、　tel：03-3425-4678，
〒154‐0017 東京都世田谷区世田谷 3-22-21）

◆『英米文化』投稿希望者へのご案内

『英米文化』第 33 号の投稿締め切りは 10 月 31 日です。投稿規定は『英米文化』第 32 号の 139 頁をご覧下さい。新入会員で投稿規定が必要な方は事務局までお申し込み下さい。E メールまたはファックスにてお送り致します。その他投稿に関してのご質問は学術担当の田邉治子理事（E メール：tanabeh@dh.catv.ne.jp　Tel: 03-3722-0235　Fax: 03-3721-9325）までお寄せ下さい。

◆事務局からのお知らせ

●函館大会の交通機関と宿泊

一部の会員にはすでにＥメールにてお伝えしましたが、往路の航空機が早朝の便から次のように変更になりましたので、ご注意下さい。

往路　９月６日（金）　羽田発０９時５０分ＪＡＬ５４９便　（函館着１１時１０分）
復路　９月８日（日）　函館発１４時４０分ＪＡＬ５４４便　（羽田着１６時００分）
宿泊：アクアガーデンホテル（シングルのみ、食事なし）２泊　tel:0138-23-2200
〒040-0064　函館市大手町 19-13　（ＪＲ函館駅徒歩３分、朝市のすぐそばです）
なお、ホテルとの直接交渉はご遠慮下さい。
費用：５０，５５０円（往復の航空運賃とホテルのセット）
ちなみに、片道の普通航空運賃は２６，５００円です。

ご予約は郵便振替にて、８月９日（金）必着にてお振込み下さい（前号の会報では７月３１日を締め切りと致しましたが、旅行代理店のご配慮により延期して頂きました）。集合場所・時間など日程の詳細は、後日、参加者にお知らせ致します。なお、恐縮ですが、飛行機の搭乗者名簿作成のため、振替用紙の通信欄に年齢のご記入をお願い致します（２５歳の方は２５とお書き下さい）。

また、ホテルの宿泊（１泊でも可）だけを希望の方は、郵便振替用紙の通信欄に宿泊希望日(９月６，７日)をご記入の上、１泊６，８２５円(込込、シングル、食事なし)、２泊１３，６５０円をお振込下さい。

ご不明な点がありましたら、財務担当の大東までお寄せ下さい。なお、締め切り後も空きがありましたらお申し込みを受け付けますのでご相談下さい。

E-mail:daito@human.ac.jp
Tel:03-5399-3395(自宅)
郵便振替口座番号：00160-7-611777
加入者名：英米文化学会

※ご予約のキャンセルは速やかにお知らせ下さい。旅行代理店との協定により、８月１６日以降はキャンセル料が発生致します。

●平成１３年度会計報告ならびに平成１４年度予算案について

平成１３年度英米文化学会収支会計報告書（別表）につき、４月３０日、山下信一先生より監査を受け、６月８日の例会時に行われた総会にて承認されました。また、平成１４年度英米文化学会

会計予算案（別表）についても、総会において承認されました。通常の支出に加え、本年度は「特別プロジェクト費」として翻訳書の刊行準備費などが計上されています。

平成１３年度英米文化学会収支会計報告書

自 平成 13 年 4 月 1 日
至 平成 14 年 3 月 31 日　単位：円

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
前年度繰越金	1,472,137	事務局費	300,000
学会費	1,014,000	学術委員会費	716,878
学会誌（３１号）負担金	525,000	広報費	143,164
雑収入	123,192	理事会運営費	95,265
印税	3,611,183	分科会運営費	80,315
		大会費	608,758
		例会運営費	20,000
		渉外担当費	20,000
		評議員会費	5,300
		『現代アメリカ小説』助成費	714,390
		出版準備費	90,720
		出版助成費	420,000
		フォーラム２００２費	1,039,146
		学会基金	1,000,000
		諸雑費	340,593
		次年度繰越金	1,150,983
合計	6,745,512	合計	6,745,512

平成１４年度英米文化学会会計予算案

自 平成 14 年 4 月 1 日
至 平成 15 年 3 月 31 日　単位：円

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
前年度繰越金	１，１５０，９８３	事務局費	３００，０００
寄付金	１４７，４２６	学術委員会運営費	６５０，０００
学会費	１，０００，０００	広報費	１４０，０００
学会誌（３２号）掲載料	３８１，０００	渉外費	２０，０００
印税	９７６，８０４	分科会運営費	１５０，０００
雑収入	５０，０００	大会運営費	５００，０００
		例会運営費	２０，０００
		理事会運営費	１２０，０００
		評議員会運営費	８０，０００
		特別プロジェクト費	５００，０００
		学会基金積立金	１，０００，０００
		予備費	２２６，２１３
合計	３，７０６，２１３	合計	３，７０６，２１３

●総会開催のお知らせ

6月8日の第109回例会終了後に行われました総会にて、以下の案件が提出され承認されました。

１）平成13年度会計報告
２）平成14年度予算案
３）学会規約の改正案（下記に改正部分掲載）

●学会規約が改正となりました

改正点のみを掲載いたしますので、全文は学会ホームページにてご覧ください。（平成１４年６月８日付）

＜追加＞

第三条　（入会資格）　第二条の目的に賛同する者。
第十一条　（事務局）　事務局担当常任理事の本務校内研究室内に置くものとする。
※　なお、第二条　（目　的）　は「本会は英語学、英米文学、英語教育、英米文化の研究を目的とし、あわせて会員相互の親睦をはかる。」となっております。

●大会参加等に関する派遣願いの発行

第 20 回大会にご参加の会員で、出張届の提出などで、大会プログラムや学会からの派遣願い等が必要な場合は、事務局長佐藤治夫先生 (shakey23@dh.catv.ne.jp または 03-3219-8160)までご連絡ください。

◆会員の動き

【新入会員】
省略

【住所変更（新住所)】
省略

Once upon a time……

英米文化学会会報　第 52 号　　編集／発行：英米文化学会
編集責任者：石山伊佐夫（広報担当）　ishiyama@cc.toin.ac.jp
〒224-0028　横浜市都筑区大棚西 3-3-1001　℡ 045-592-6570

年会費等振込先：郵便振替　加入者名　英米文化学会　口座番号　00160-7-611777
問い合せ先　英米文化学会事務局 佐藤治夫　℡ 03-3219-8160 ファックス 03-5204-8787
E-mail: shakey23@tky.3web.ne.jp
学会ホームページ http://www.osk.3web.ne.jp/~shakey23/indexj.html